

2. 火山の概況 (平成 19年 8月 31日 ~ 平成 19年 9月 6日)

噴火した火山

諏訪之瀬島 [活発な状況 (レベル3)] : 8月 31日に小規模な噴火が発生した。

活動が活発もしくはやや活発な状況の火山

樽前山 [やや活発な状況] : A 火口及び B 噴気孔群では高温状態が続いていると推定される。

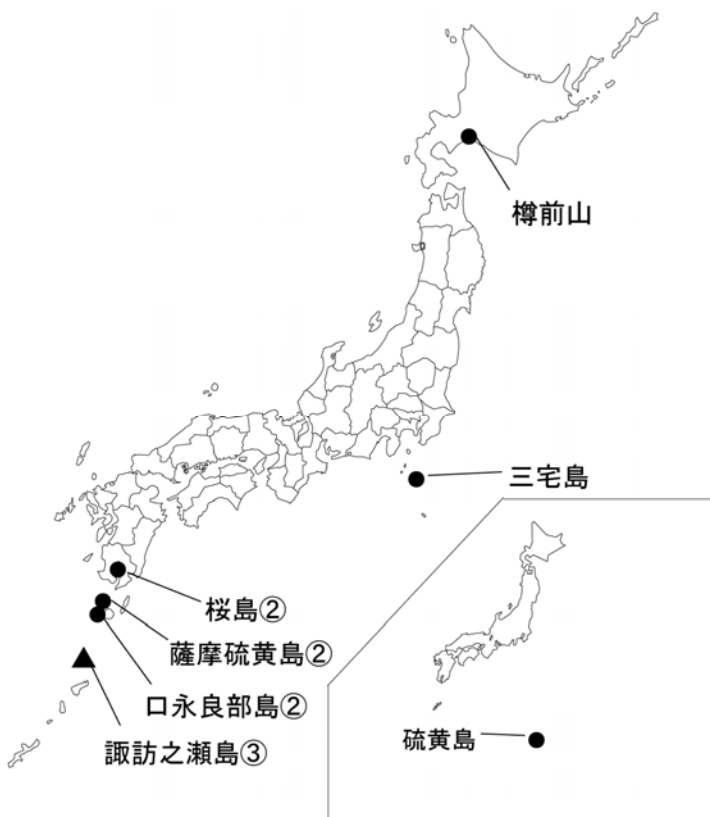
三宅島 [やや活発な状況] : 多量の火山ガスの放出が続いている。

硫黄島 [やや活発な状況] : 島全体が大きく隆起する地殻変動は、やや鈍化しながらも継続している。

桜島 [比較的静穏な噴火活動 (レベル2)] : 今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火活動が続いている。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況 (レベル2)] : 噴煙活動はやや活発で、火山性地震はやや多い状態が続いている。

口永良部島 [やや活発な状況 (レベル2)] : 火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。



注1 本資料中で記したレベルとは、火山活動度レベルを導入した火山におけるレベルを言う。

注2 記号の意味

● : 噴火した火山

▲ : 活動が活発もしくはやや活発な状況の火山

■ : 静穏な状況であるが観測データ等に变化のあった火山、もしくはその他の記事を掲載した火山

○①②③ : 火山活動度レベル

図1 活動解説を掲載した各火山の今期間の活動状況

【各火山の活動解説】

各記号の意味は次のとおり。：噴火が観測された火山。：活動が活発もしくはやや活発な状況である火山。：静穏な状態であるが観測データ等に変化があった火山、もしくはその他の記事を掲載した火山。

樽前山 たるまえさん 【やや活発な状況】

A火口及びB噴気孔群では依然として高温の状態が続いていると推定される。樽前山の火山活動はやや活発な状況で経過しており、火口周辺では注意が必要である。なお、噴煙活動・地震活動は低調な状態が続いており、地殻変動に特段の変化はなかった。

三宅島 みやけじま 【やや活発な状況】

9月3日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,100~1,700トン（前回8月28日、1,900~2,600トン）と依然として多量の火山ガスの放出が続いている。火山性地震はやや多い状態が続いている。今期間、天候不良のため噴煙の状況は確認できなかった。三宅島では多量の火山ガスの放出が続いており、特に風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。また、雨による泥流にも注意が必要である。なお、火山性微動は観測されず、地殻変動に特段の変化はなかった。

硫黄島 いおうじま 【やや活発な状況】

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化しながらも継続しており、島内の地震活動は回数がやや多いものの落ち着いた状態で推移している。硫黄島の火山活動はやや活発な状況が続いており、従来から小規模な水蒸気爆発が見られていた領域では、今後も注意が必要である。

桜島 さくらじま 【比較的静穏な噴火活動（レベル2）】

今期間、噴火は観測されなかった。火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。9月6日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり300~700トン（前回8月30日、500~1,100トン）で、今年5月に始まった昭和火口の噴火以前の状態で経過している。国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入による長期的な膨張傾向が続いている。桜島では長期にわたり噴火活動が続いており、南岳山頂火口及び昭和火口から半径2km以内では注意が必要である。

薩摩硫黄島 さつまいあうじま 【やや活発な状況（レベル2）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね400mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。薩摩硫黄島の火山活動はやや活発な状況が続いており、硫黄岳山頂火口周辺では注意が必要である。

口永良部島 くちのふらぶじま 【やや活発な状況（レベル2）】

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。口永良部島の火山活動はやや活発な状況が続いており、新岳火口周辺では注意が必要である。なお、遠望カメラ（新岳火口の北西約3kmに設置）では、新岳火口周辺の噴気等は観測されなかった。地殻変動に特段の変化はなかった。

諏訪之瀬島 すわのせじま 【活発な状況（レベル3）】

8月31日に小規模な噴火が発生した。火山性地震及び火山性微動は8月下旬よりやや多い状態が続いていたが、9月2日以降は少ない状態で経過している。諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返すなど火山活動は活発な状況が続いており、御岳火口

から半径 2 km 以内では注意が必要である。

表 1 最近 1 か月に記事を掲載した火山及び各火山のレベル

概況番号	対象期間	北海道		東北		関東・中部				伊豆・小笠原諸島			九州・南西諸島										
		樽前山	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	三宅島	硫黄島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山(新燃岳)	霧島山(御鉢)	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島						
																		記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル
36	8/31-9/6	●	①	①	①	①	●	●	①	①	①	①	①	●	②	●	②	●	②	●	②	▲	③
35	8/24-8/30	●	①	①	①	①	●	●	①	①	①	①	①	●	②	●	②	●	②	●	②	●	③
34	8/17-8/23	●	①	①	①	①	●	●	①	①	①	◇	①	●	②	●	②	●	②	●	②	●	③
33	8/10-8/16	●	①	①	①	①	●	●	①	①	①	①	①	●	②	●	②	●	②	●	②	●	③
32	8/3-8/9	●	①	①	①	①	●	●	①	①	①	①	①	▲	②	●	②	●	②	●	②	●	③

記号の意味

- ：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状況の火山
- ：静穏な状況であるが観測データ等に変化のあった火山、もしくはその他の記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字：火山活動度レベル

火山情報発表状況

今期間、火山情報の発表はなかった。